

「るなぱあく」にオリジナルコンテナ



12フィート1台、20フィート1台のコンテナを連結させた

地元業者が連携事業

県外には管理棟、賃貸住宅も

TSUTSUMI

住宅リフォームなどのTSUTSUMI（前橋市日吉町4-17-3、堤広之社長 0277-2121898）は、3日に前橋市中央児童遊園（るなぱあく）にオープンしたカフェスペースの施工を手掛けた。自社開発のコンテナを採用。同社と同施設運営のオリジナル群馬、双和電業、FUJISAWA、前橋園芸、ろけっと開発による「M・M Project」（Made in MAEBASHI Project）の1棟「地域の人たちが喜んで使ってもらえればうれしい。コンテナハウスの新しい使い方も知ってもらおう機会になる」（塚社長）。県外からは、すでに幅広い用途に使うコンテナの引き合いが増えており、引き続き需要拡大に努めていく。

同社は施設内に、12フイート1台、20フイート1台のコンテナを連結させた店舗・喫茶コーナーを整備。中央部分は半屋外スペースで室内は冷暖房が整い飲食が可能。白をベースにガラス張りの明るい雰囲気の特徴。

今回のプロジェクトに用いたコンテナは自社開発の建築確認対応型。設計士、構造設計士により建築確認申請に必要な図面や書類、構造計算書を作成している。従来、海外製の中古海上コンテナを改造し、さまざまな用途に使われているケース

があるが、さびやへこみなどの状況から、中古コンテナは国内の建築基準をクリアできない状況にある。

同社では日本のJIS規格の鋼材を使い、独自の新造コンテナを開発。これまでに、コンテナハウスの店舗や事務所などを手掛け、東日本大震災が発生した宮城県南三陸町では、12台を連結させたコミュニティカフェを手掛けた。

最近では、布美大島で20フイートコンテナ13台を連結させた一部2階建てのホテルも建設。福岡の道の駅にはコンテナカフェを設置。高崎市内には2階建て住宅も施工。今回、前橋市内への設置は初めてとなる。

現在、茨城県内のガソリンスタンドの管理棟を建設中。埼玉の越谷には20フイートより少し大きめのコンテナ21台を連結させた3階建ての賃貸住宅の建設にも着手する。1階はテナントとして店舗が入居。2階、3階は8部屋を確保する。賃貸住宅は初の試みとなり、全国的にも例がないという。防音・遮音にも対応するので、住居として何の問題もなく生活することができる。完成は来年3月中旬。